

## 令和5年度 第3回帯広市環境審議会における「ご意見」及び「現時点における考え方」

- 1 日 時： 令和5年12月4日（書面開催）
- 2 議事内容： （1）審議事項（仮称）帯広市ゼロカーボン推進計画（原案）について  
（2）その他
- 3 意見等の内容： 以下のとおり

No	議事	関連箇所	意見の概要	現時点における考え方
1	(1)	P1 1.1 計画の趣旨	「近年、地球温暖化により、気温～」を「近年、地球温暖化による気温～」に修正してはどうか。	ご意見を踏まえ、修正したいと考えています。
2	(1)	P8 2.1.3 気候変動による影響	RCP8.5 シナリオについて、もう少し詳述してはどうか。 図2-3 (P5) の各シナリオや、表3-3 (P26) の注釈(44は…)のように説明があった方が親切だと思う。	P8 に、「RCP8.5 シナリオ」について注釈を追加したいと考えています。
3	(1)	P26 3.5 温室効果ガス排出量の状況	多くの積算根拠で人口に相関があることから、全国、北海道、帯広市別に、ここ数年の減少率に基づく人口推移のグラフを添付してはどうか。	P26 は、温室効果ガス排出量の推計方法をまとめたものとなっていることから、人口推移のグラフは関係性が薄いと考えています。 なお、帯広市の人口推計についてはP17に記載しています。
4	(1)	P28～ 4.2 温室効果ガス排出量の削減目標	とても大きな目標で、しかし、達成をしなければならない計画なので、あとはどの様に実践していくかが大切だと感じた。	

No	議事	関連箇所	意見の概要	現時点における考え方
5	(1)	P28～ 4.2 温室効果ガス排出量の削減目標	やるならばゼロカーボンではなく、カーボンマイナスを実現させ、カーボンオフセットで儲ける立場を目指されたい。	本計画の温室効果ガス排出量の削減目標については、北海道の目標を踏まえ、令和 12 (2030) 年度までに平成 25 (2013) 年度比 48%削減を目指すこととしています。 この目標は、現行の環境モデル都市行動計画の令和 12 (2030) 年の削減目標を大幅に上回る、非常に高い目標であると考えています。
6	(1)	P29 4.2.2 中期目標における部門別の削減目標	2030 年度だけでなく、2024 年度から 2029 年度の温室効果ガスの想定排出量と目標削減量の内訳を数値化してはどうか。 毎年の削減目標の達成目安が明確になれば、分析しやすくなり、改善が必要な部門・分野への軌道修正を迅速に実行できると思う。	本計画では、年度毎の削減目標量の積み上げを行っていないため、年度ごとの数値を示すことができません。 しかし、計画の進捗管理においては、削減目標量を計画年数で割った平均的な削減目標量と実績の比較をし、進捗状況について評価をする必要はあるものと考えています。
7	(1)	P33 5.1 計画の体系	5 つの基本方針と 11 施策に係る削減目標値を記載すべき。 具体的な数値目標を定めた上で、「進捗評価項目の進捗の良否が温室効果ガス排出量の削減目標の達成状況に直接的に結びつくものではない」ことを注記してはどうか。	本計画は、全体及び部門別の排出量により、目標達成の進捗状況を管理し、5 つの基本方針と 11 施策は進捗評価項目により進捗について評価していきます。 なお、進捗評価項目の位置づけについては、P33 に「取り組みの進捗をはかる参考」と明記しています。
8	(1)	P33 5.1 計画の体系	ゼロカーボン及びカーボンマイナス施策を進めるため、十勝に原子力発電所の誘致について基本方針に盛り込まれたい。農業大国であるフランスにおいて、各国と比べても原子力発電所の数が特に多いことは十勝との親和性を考えると興味がある。 地震等の災害に強い原子力発電所の設置と運用は経済的にも恩恵がある。 ※各国の原子力発電所の数：アメリカ 99 基、中国 77 基、日本 33 基、ドイツ 3 基、インド 21 基、イギリス 15 基、フランス 56 基	原子力発電については、様々な意見があることから、本計画においては触れることは妥当ではないと考えています。
9	(2)	P35 5.2.1 省エネルギー対策の推進	ZEH は日射取得の概念が抜けているので、日射取得に有利な帯広市では、冬は日射取得し、夏は日が入らないような庇（ひさし）の長さの例の提案、窓や日除けの使い方について啓蒙することも、温室効果ガス排出量の有効かつ簡単な削減に貢献する方法だと思う。	本計画の関連計画である帯広市住生活基本計画を所管する部署にいただいた意見を伝えるなど、計画の P35 の環境を重視した建物の導入に向けた参考とさせていただきます。

No	議事	関連箇所	意見の概要	現時点における考え方
10	(1)	P39 5.2.2 再生可能エネルギーの普及拡大	市民の主な取り組みとして「再エネ比率の高い電気の利用」とあるが、どのように市民に導入してもらうのか。	市有施設での再エネ比率の高い電気の利用に取り組むほか、国が進める国民運動であるデコ活と連動しながら、あらゆる機会でも効果的な情報発信を行い、再エネ比率の高い電気の利用の促進を図ってまいりたいと考えています。
11	(1)	P42 5.2.3 脱炭素化と一体となったまちづくりの推進	「公共交通の利用を促進」とあるが、バスにしても本数が少ない中でどのように呼びかけていくのか。	本計画においては具体的な記載はありませんが、関連計画である帯広市地域公共交通計画では、持続可能な公共交通サービスの確保のため、利便性と効率性の高いバス路線網に加え、効率的な運行形態や、路線バス、タクシー、鉄道の交通モード間の連携可能性について検討するとともに、公共交通の利用方法などの情報提供などによる利用促進を図ることとしています。
12	(2)	P42 5.2.3 脱炭素化と一体となったまちづくりの推進	普段の生活では、車が無くても生活できるぐらいの便利さがあると良いと思う。 公共交通機関が人手不足などで、通学に使っている高校生などにとって不便になってきていることから、通学の時間をずらして少ないバスの台数でも通学に使いやすい状況を作る等、地域全体で公共交通のあり方を最適化するよう工夫し、より使いやすい公共交通網を作ることで、マイカーの利用頻度が減り、温室効果ガス排出量の大幅な削減につなげることができるのではないかと。	本計画の関連計画である帯広市地域公共交通計画において、公共交通の運行効率化及び利便性向上について検討を進めていることから、地域公共交通計画を所管する部署にいただいたご意見を伝えるなど、P42 の交通や物流の効率化に向けた参考とさせていただきます。
13	(2)	P47 5.2.4 ライフスタイルの転換	帯広開発建設部が設置している北海道エールセンターでは、毎年、十勝管内の小中学生(1,000名以上)を対象に川での安全管理及び環境学習授業を実施している。また、管内の小中学校を対象に治水の杜授業を実施し、堤防上での小中学校による植樹体験を毎年実施している。 帯広市環境課においても、市内小中学校を対象にした帯広の森を利用した環境学習(間引き実施や樹種学習等)を実施されたい。	帯広市では、環境に関する学習を通して具体的行動に結び付けるきっかけを提供することを目的に、小中学生に加え市内の町内会やPTA、各種サークル等の団体に対して、地球温暖化や家庭でできる省エネに関する講義形式のものから、小学生向けの新聞紙の再利用で資源の大切さを伝える体験形式の「エコバッグ作り」や中学生向けには「SDGs」に関するものなど、様々なメニューの出前環境教室を実施しています。 なお、帯広の森を利用した環境教育については、帯広の森の管理者が実施をしています。

No	議事	関連箇所	意見の概要	現時点における考え方
14	(1)	P49 5.2.5 森林等による吸収源対策	<p>カーボンマイナスを目指すには、十勝の森林資源をさらに効果的に整備することが肝要である。</p> <p>成長の早いカラマツ林ではなく、将来を見据えた持続性広葉樹林（十勝ならハルニレ、ミズナラ、カシワ、ヤチダモ、ヤマモミジ、エゾヤマザクラ等の自生種を推奨）の樹林帯構築が望ましく、防風林伐採後の植樹種として上記の樹種を採用してはどうか。</p>	<p>本計画では、森林等による吸収源対策については、森林の計画的な整備、帯広の森をはじめとする公園や都市緑地、街路樹などの整備や保全などの取り組みを進めることとし、具体的な樹種までは指定する考えはありません。</p> <p>なお、二酸化炭素吸収能力の高いクリーンラーチの植栽本数により、森林等による吸収源対策の進捗評価をしていきます。</p>